

平成31年度 授業実施計画書

学 年	1 年
教科名	芸 術
科目名	音 楽 I
単 位 数	2
必修選択区分	必 修 選 択
使用教科書	音楽之友社 改訂版「ON」1
使用副教材	チャイコフスキー「弦楽セレナーデ」スコア ドヴォルザーク「交響曲第8番」スコア

組	科目担当者
1・2	
3・4	
5・6	
7・8	

学習の目標	1 学期	発声の基本を習得する。ソルフェージュ実習を通して読譜力・音程感覚を身に着ける。アルトリコーダーの基本法を習得する。チャイコフスキー「弦楽セレナーデ」の聴取を、score readingしながらおこなう。
	2 学期	アルトリコーダーのグループ活動を展開する。斉唱及び簡易な合唱を実習する。score reading鑑賞は、ドヴォルザークの「交響曲第8番」を扱う。
	3 学期	箏の実習を通し、日本音楽の基礎を理解する。ミュージカル鑑賞と楽曲の歌唱を通し、作品の理解を深める。
担当者からのコメント	発声法と読譜力を習得することは、豊かな音楽表現への礎になります。多くの楽曲の実習及び、鑑賞を通して、音楽的感性を養い、幅広い芸術観を身につけましょう。	

成績評価	観点	意欲的・主体的に表現活動に取り組んだか。音楽の基本的な知識と能力が身についているか。豊かな音楽表現ができているか。
	方法	授業中の観察による評価、及び実技試験。

授 業 計 画	学 期	時間	指 導 内 容	備 考
	1 学期	中間	12	斉唱歌の実習。校歌合唱。ソルフェージュ実習。ARの基礎。
期末		12	斉唱歌の実習。ソルフェージュ実習。ARの基礎。弦楽セレナーデ聴取。	
2 学期	中間	14	ARグループ活動。斉唱歌の実習。交響曲第8番聴取。	1学期の活動を活かして、表現活動を展開させる。
	期末	14	ARグループ活動。斉唱歌の実習。交響曲第8番聴取。	
3 学期	学年末	18	箏の実習。舞台芸術の鑑賞活動。	箏の実習は、市民講師と授業者のT.T.による。

平成31年度 授業実施計画書

学 年	1 年
教科名	芸 術
科目名	美 術 I
単 位 数	2
必修選択区分	必 修 選 択
使用教科書	高校生の美術1 (日文)
使用副教材	なし

組	科目担当者
1・2	
7・8	

学習の目標	1 学期	グラフィックデザインの目的と用途を理解し実用的なデザインを制作する
	2 学期	実際の大きさに基づいた建築物の模型を制作する
	3 学期	ポスターの役割を理解してメッセージが伝達されるための最適な手段を考える
担当者からのコメント	授業中、どれだけ集中して創作に取り組めるかで作品の内容も変わります。作品と真摯に向き合って完成度を高めてください。	

成績評価	観点	課題に対して興味を持って取り組み創造的な表現を実現しようとしているか。技法や基礎理論を理解し技能として習得できているか。
	方法	提出作品の内容と完成度。授業態度など課題に取り組む姿勢。

授 業 計 画	学 期	時間	指 導 内 容	備 考
	1 学期	中間	12	グラフィックデザイン アイディアスケッチ～着色
期末		12	グラフィックデザイン 着色～仕上げ	
2 学期	中間	14	建築模型制作 図面～制作	実用的な間取りや高さを考える
	期末	14	建築模型制作 制作～着色 仕上げ	
3 学期	学 年 末	18	ポスター制作	次年度文化祭ポスターの制作

平成31年度 授業実施計画書

学 年	1 年
教科名	芸 術
科目名	書 道 I
単 位 数	2
必修選択区分	必 修 選 択
使用教科書	光村 書 I
使用副教材	なし

組	科目担当者
3・4	
5・6	

学習の目標	1 学期	執筆法・姿勢を意識させ、筆の構える方向に注意させる。楷書の用筆を理解させる。
	2 学期	行書の学習における運筆の中で、抑揚・強弱の用筆を習得できる用にする。
	3 学期	仮名学習における執筆法を常に意識させて線を引かせる。
担当者からのコメント	多くの生徒は初学習に該当するため、執筆法・構えを書体に関わらず意識して学習に向き合う。	

成績評価	観点	執筆法・筆の構えを意識して書いているか。様々な線を迷いなく書けているか。
	方法	毎週の提出物、学期末の単元ごとの作品。出席状況・学習態度などを考慮して総合的に行う。

授 業 計 画	学 期	時間	指 導 内 容	備 考
	1 学期	中間	12	孔子廟堂碑・九成宮禮泉銘の学習
期末		12	雁塔聖教序・顔真卿の楷書の学習	
2 学期	中間	14	蘭亭序の臨書	筆圧運筆の加減に注意させ余白を書くつもりで学習させる。
	期末	14	風信帖の臨書	
3 学期	学年末	18	高野切の臨書・連綿学習・散らし書きの学習	一定の太さで書けるように筆構えを意識させる。

平成31年度 授業実施計画書

学 年	2 年 年
教科名	芸 術
科目名	音 楽 II
単 位 数	2
必修選択区分	必 修 選 択
使用教科書	音楽之友社 改訂版「ON」2
使用副教材	ベートーヴェン「交響曲第9番」スコア

組	科目担当者
1・2	
3・4	
5・6	
7・8	

学習の目標	1 学期	ア・カペラ合唱を主体とした歌唱活動において、ハーモニー感覚、フレーズング、アゴーギク等についての着眼点を持ち、表現できるようになる。交響曲第9番のScore readingを通し、楽曲の様式・楽器・作曲家・音楽史についての理解を深める。
	2 学期	1学期の内容をさらに発展させ、音楽表現力の伸長を図る。交響曲第9番のscore readingを全楽章終える。交響曲第9番のまとめ。
	3 学期	ミュージカル及び舞台芸術作品の鑑賞をおこない、楽曲や作品の背景を学習する。
担当者からのコメント	音楽表現は、人間の精神的・肉体的な成長だけでなく、柔軟な思考力と柔らかな感性が伴って、感動を伴う豊かなものへと広がっていきます。「何かを感じる心」を大切に育てていきましょう。	

成績評価	観点	意欲的・主体的に表現・鑑賞活動をおこなったか。歌唱活動においてハーモニー感覚、フレーズング、アゴーギク等の要素を理解し表現できているか。楽曲の背景や楽器・作曲家等に関心を示し、深く理解しようとしているか。
	方法	授業中の観察による評価、及び実技試験、筆記試験、提出物の内容による評価。

授 業 計 画	学 期	時間	指 導 内 容	備 考
	1 学期	中間	12	斉唱、ア・カペラの実習。交響曲第9番の聴取とscore reading
期末		12	斉唱、ア・カペラの実習。交響曲第9番の聴取とscore reading	
2 学期	中間	14	斉唱、ア・カペラの実習。交響曲第9番の聴取とscore reading	
	期末	14	斉唱、ア・カペラの実習。第4楽章合唱実習。鑑賞活動。	
3 学期	学年末	18	舞台芸術作品の鑑賞活動。関連楽曲の実習。	芸術作品の聴取と表現活動を共に行い、より作品への理解を深める。

平成31年度 授業実施計画書

学 年	2 年
教科名	芸 術
科目名	美 術 II
単 位 数	2
必修選択区分	必 修 選 択
使用教科書	美術2（光村図書）
使用副教材	なし

組	科目担当者
1・2	
7・8	

学習の目標	1 学期	色彩の持つ機能的側面を理解しポスターの役割と可能性を考え、コンセプトを持って計画的に制作する。
	2 学期	凹版画の技法を学ぶ。
	3 学期	自然物の持つ複雑な形を観察する。石粉粘土と小刀による彫塑の基本～応用を学ぶ。
担当者からのコメント	集中して制作に取り組み完成度を高めること	

成績評価	観点	課題に対して興味を持って取り組み、創造的な表現を実現しようとしているか。技法や基礎理論を理解し技能として習得出来ているか
	方法	提出作品の内容と完成度。授業態度など、課題に取り組む姿勢。

授 業 計 画	学 期	時間	指 導 内 容	備 考
	1 学期	中間	12	ポスター制作
期末		12	ポスター制作	
2 学期	中間	14	版画制作(ドライポイント)	線による表現の追求
	期末	14	版画制作(ドライポイント)	
3 学期	学 年 末	18	石粉粘土と小刀を用いた彫塑	野菜果物をモチーフとするテーマ課題と自由制作

平成31年度 授業実施計画書

学 年	2 年
教科名	芸 術
科目名	書 道 II
単 位 数	2
必修選択区分	必 修 選 択
使用教科書	光村 書II
使用副教材	なし

組	科目担当者
3・4	
5・6	

学習の目標	1 学期	篆書体の用筆を理解し、実践させる。篆刻においては印刀の使い方を知る。
	2 学期	隸書・草書の学習から、書体の変遷・用筆の変化をりかいさせる。
	3 学期	仮名学習を基礎にバランスよく漢字と仮名を表現してみる。
担当者からのコメント	各種の書体を学習し、自分の表現を成長させられたか。	

成績評価	観点	主体的に意欲的に各単元に取り組んだか、学習を通じて表現力が身についたか。
	方法	平常の提出物・学期末の作品。意欲・学習態度・出席状況などを考慮して総合的に評価を行う。

授 業 計 画	学 期	時間	指 導 内 容	備 考
	1 学期	中間	12	泰山刻石の臨書、姓名印の制作
期末		12	皇甫誕碑・孟法師。藤原行成の行書	
2 学期	中間	14	藤原行成の行書、隸書・草書の学習	用筆において起筆・送筆・収筆を意識させる。
	期末	14	関戸本古今集、寸松庵色紙の学習	
3 学期	学年末	18	高野切の臨書、和漢朗詠集切の学習。	かな・漢字の線の太さ・余白に注意させる。